

ピア・インストラクション

教員が提示した課題について、学生同士で解答を考え出させる技法。まず教員が出した課題について学生個人で解答を考えた後、隣同士でお互いの解答とその理由について議論させ、最後に教員から正答を伝え解説するもの。基本的な知識を扱う知識獲得型授業で行われる点も、ピア・インストラクションの特徴です。

ハーバード大学のエリック・マズール氏により1990年に大規模講義における双方向的な教授法として開発されました。初修物理学の講義で始まったこの授業法は、現在では、世界中の大学の様々な分野で実践されています。

詳しくはPeer Instruction: A User's Manual (1997), 共著書にPeer Instruction: Making Science Engaging (2006), Using JiTT with Peer Instruction (2009)を参照。

科目名：有機スペクトル化学

担当者：大庭亨 先生（工学部）

工学部の専門導入科目である「応用化学基礎」は1年次の必修科目です。大庭先生の授業では、ペアワークやグループワークを取り入れた授業が行われています。その一つに、ピア・インストラクションがあります。

問題を一つ提示し、まずは個人で考えます。そして、「周りの人とどんだん話し合って」と指示します。教員は机間巡視をしながら、手がとまっているポイントに関してヒントを伝えていきます。解答できた学生は立ち止まっている学生に教えたり、わからない学生は質問をしたり、互いに議論をしながら答えにたどり着きます。最後は、教員が前で解説を行っていきます。

このように「個人で問題を解く→教員の解説」だけではなく、学生同士の議論を挟むことで、理解の深まりが期待されています。